ホームページの公開と運用： 大阪大学附属図書館生命科学分館の事例報告

久保山 健*

大阪大学附属図書館生命科学分館

Kuboyama T. (Osaka University Life Sciences Library. 2-3, Yamada-oka, Suita 565-0871, Japan): Arrangement and Management of a Web Site at the Osaka University Life Sciences Library. *Igaku Toshokan* 1998; 45(1): 82-87.

Web sites are becoming more common these days. The Osaka University Life Sciences Library has tried to create a useful and worthwhile Web site, which was established in July 1997, to provide up-to-date information for users. This paper describes its experience of creating a notable Web site. This Web site puts main news and information which is worthwhile for the users on the upper part of the homepage, as the users can find out whether the information is necessary or not at first access. An easily-used-site and regular or frequent renewal encourage users to browse the Web site repeatedly. A maintenance system is necessary for renewing the pages effectively. Each item is taken care of by people in charge to guarantee that up-to-date information is provided. Also, a working group has been organized to manage all the pages. In addition, public relations of the Web site and continuous provision of useful information are important to continue this new service. Its purpose and contents are also discussed.

Key words : Web Site; Homepage; the Internet

I. はじめに

インターネットやホームページは、ひと頃のブームを過ぎて、「落ち着きつつ」あるように感じる。以前は、ホームページというだけで、多くの人の関心を集めていたが、最近では、ただホームページを公開した、というだけでは、すでに意味のない時期に入っている。

大阪大学附属図書館生命科学分館では、利用者の関心に応えて、新鮮で役に立つ情報を提供したいとの観点からホームページの公開を検討してきた。本稿では、内容・ページ構成で注意した点、運用体制、大切だと感じた点を中心に報告する。

なお、大阪大学附属図書館ホームページは、本

館・2分館のホームページと、附属図書館全体のホームページとで構成されている。本稿で取り上げるのは、特にことわりがない限り、当分館のことである。

また、本稿では、「ホームページ」という用語を、最初の導入ページという意味だけではなく、当館に関しては、関連ページの集合という意味でも用いる。「ウェブサイト」という言い方もあるが、まだ定着していないように思われる。英語の原意とは異なるが、ここでは「ホームページ」を用いることにする。

II. 公開までの経緯

公開までの経緯をおおまかに整理しておきたい。

*Takeshi KUBOYAMA : 〒565-0871 吹田市山田丘 2-3.

(1997年12月25日 受理)

1996年2～3月 プロジェクト・チームの設置、基本方針の検討

当初から数名で維持管理していくことを意識していたので、まず分館内にプロジェクト・チームを設けた。ここで行ったことは、利用者のニーズ・特色の打ち出し方・ページ構成の検討、事例動向調査、利用者層の想定、望ましい運用体制の検討などである。この時期に、どのようなものを作るのかという大筋をまとめることができた。

併せて、HTMLやWWWについて、各自の自習が中心であったが、研修を行った。

1996年8～9月 収録内容の具体化

項目ごとに実現可能性、イメージ、細部の内容、解決すべき問題点等を検討した。そして、項目別に担当掛(案)を決め、それぞれの掛と相談しながら実施に向けて検討を進めた。

1996年12月～1997年2月 公開予備版作成

それまでの議論を受けて、内容を登録し、館内の意見を求めた。つづけて、運用方法を具体的に検討した。

1997年7月 公開

Ⅲ. 目 的

プロジェクト・チームでは、当館ホームページの目的を以下の5つにまとめた。

- (1) ネットワーク上への図書館サービスの展開
- (2) 利用者とのコミュニケーション
- (3) 広報・お知らせ
- (4) 当館の活動のアピール、イメージアップ
- (5) 当館職員のレファレンス・情報収集用

ホームページというものを使って、利用者の役に立つ情報を提供することを目指した。逆に言えば、ただのお知らせの手段や、図書館概要を紹介

するだけのものにしたいと考えていた。ただし、実用化に向けて検討していくなかで、多少重点の置き方が変わらざるを得ないこともあった。

Ⅳ. 内容・見せ方で注意した点

利用者の目・関心を意識したホームページづくりを心がけた。

1. 一目で必要な情報(配置・構成)

まず、最初のページにアクセスしたときに、必要な情報があるかどうか分かるようにした。見る側の利便を考えた際、その方が使いやすいものになると考えたからである(もちろん、見せる側の都合も考えている)。

そのため、主要なお知らせや図書館の側から特に伝えたいことは、最初のページの目に付くところに見出しを載せることにした。また、問い合わせの多い、開館日時や製本のお知らせも最初のページで概要が分かるようにした。

なぜなら、「掲示板」というリンクを設けているだけでは、素通りされるのではないかと思ったからである。例えば、廊下の掲示板であれば、通りかかっただけで目にしてくれる可能性は高いが、コンピュータの中の情報は、あるところをクリックしない限り、誰にも見られないものである。

一方で、その情報があるかどうか探してくれそうなもの(利用案内など)や、図書館概要のようなものは、画面の「下」の方や構成上「深い」位置に置いた。

2. 繰り返しアクセスしてもらう

このためには、利用者の関心に応えるような情報を提供し、かつ、定期的に更新しなければならないと考えた。館によって、利用者の関心といっても違いがあるかもしれないが、自館の利用者をよく考慮して、役に立つものを提供すべきであら

う。繰り返しアクセスしてもらわなければ、存在意義もなくなり、上で触れたようなこちらから伝えたいことも伝えられないことになる。また、更新されないページは、利用者を飽きさせるだろう。

3. その他

内容・デザイン共に、手間がかかりすぎることは避けた。多少の遊び心はあった方がいいだろうが、大した意味もないのに時間ばかりかかるページは作成しないように注意した。

これ以外のことは、コンピュータ雑誌や図書館関係雑誌にも数多く触れられているので、ここではこれだけにとどめる。

V. 収録内容

1. 掲示板

上の「一目で必要な情報」で述べたような理由から、掲示板の見出しを最初のページに置いた。いつ掲載されたか分かるように、掲載日も記入している。また、新たに掲載した場合、目を引くように「New」マークを入れるようにしている。

実際、最初のページの目付く場所に、掲示板の見出しに限らず何かを並べるのは効果があるのではないかと期待している。例えば、他サイトへのリンク追加のお知らせと併せて、「生命図の本棚」(他サイト紹介のページ)へのリンクを載せ

大阪大学生命科学図書館

Osaka University Life Sciences Library

• 掲示板 → 「その他の掲示」

開館日時
年末年始の開館日時 (1997. 12. 12.)
12月26日(金)まで 通常通り開館
12月27日(土)から1月4日(日)まで 休館
1月5日(月)から 通常通り開館

製本のお知らせ
三階開架和雑誌 A-M 1996年発行分 (1997. 12. 12.)
(一部、1995年以前の分を含む)
二階開架欧文雑誌 N-Z 1996年発行分 (1997. 12. 5.)
(一部、1995年以前の分を含む)

Free MEDLINE (NLM)、
NACSIS Webcatへのリンクを追加しました。(1997. 10. 24.)
→ 「生命図の本棚」をご覧ください。

Biological Abstractsの検索サービス開始(1997. 9. 26.)
CD-ROM検索サービス時間帯を拡大(1997. 9. 19.)
生命科学分館が全館禁煙に(1997. 9. 19.)
本文は、→ 「その他の掲示」をご覧ください。

- 蔵書検索 (OPAC)、解説 telnet版
- CD-ROMサーバーの案内 (学術情報検索システム: MEDLINE等が利用できます)
- WebSPIRS (学内の方のみ)

• 生命図の窓口

利用案内 (開館時間、交通案内等)
図書館への相談・調査

• 生命図の本棚

• 資料室

• About our library

[大阪大学ホームページ] [大阪大学附属図書館ホームページ] [UMIN]

English guide is [here](#) (not available)

このホームページに関するご意見等は、e-mail: www-admin-ls@library.osaka-u.ac.jp にお寄せください。
(その他のご意見は、相談・調査コーナーからお願いします。)

作成・編集: 大阪大学附属図書館生命科学分館

図1. 生命科学分館ホームページ

(<http://www.library.osaka-u.ac.jp/seimei/>)

た際に、「本棚」へのアクセス件数が増加したのである。スーパーマーケットのように、“特価品”や“おすすめ商品”を時々並べ、関心を引く工夫をした方が利用が伸びると思われる。

2. OPAC, CD-ROM サーバの案内（解説、検索画面）

これらのページは、大阪大学附属図書館全体で維持・管理しているものである。利用者がすぐに使えるように最初のページからリンクを張った。

3. 生命図の窓口

・利用案内

リーフレット形式の利用案内から若干加工して作成した。

・交通案内、地図

学外からの来館者（利用者、図書館員）にとって、役に立つ情報だと考えた。最寄り駅からのバスの時刻表も、スキャナで読み込んだものを掲載している。やや「深い」位置にあるためか、存在が知られていないためか、アクセス数が多いとは言えない状況である。しばらく様子を見ていきたいと考えている。

・相談・調査

目的の(1)(2)の実現を目指したページである。所蔵調査や資料の購入希望、図書館への質問などを電子メールで受け付けている（ただし、来館型サービスについての記述も併記している）。公開前は、処理しきれない量のメールが入ったらどうするのかと、物議をかもしたページであったが、月に1件程度しか入ってきていない。様子を見た上で、サービス内容・受付方法など、今後検討しなければならないかもしれない。

4. 生命図の本棚

いわゆるリンク集である。附属図書館ホームページに「学外の情報サービス」([http://www.](http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/gakugai.htm)

[library.osaka-u.ac.jp/others/gakugai.htm](http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/gakugai.htm))というページがあり、また、リンク先の更新に不安があったので、実用化の段階ではあまり重視してこなかった（正直なところ、数カ所で同じようなページを維持しているのは無駄ではないかとも思っていた）。しかし、インターネット上に有用なサイトがあり、それを業務のなかで活用し、利用者にも提供していくためには、積極的に取り組むべきところであろう。今後、徐々に充実させていきたいと考えている。

5. 資料室

当館の刊行物や紹介記事を掲載している。

6. About our library

大学の英文要覧にある当館に関する記事を掲載している。学内の留学生・外国人研究者、国外の不特定多数の人々を意識している。現在の当館ホームページはほとんどすべて日本語なので、英語ページへのリンクは、最初のページの上の方へ置くべきではないかと考えている。

VI. 運用体制

1. 維持・管理の分担

それぞれの掲載項目ごとに、担当掛を決めて、責任を持って維持・更新できるようにした。また、プロジェクト・チームをワーキング・グループ(WG)に移行させ、特定の掛に割り当てにくい項目、各ページのデザイン、ページ全体の構成などは、WGが集团的に担当することとした。

このようにすることのメリットは、まず、担当者が交代したあとも継続して行えることが期待できること、そして、アイデアを共有できることである。そのことにより、1～2人のみへの負荷の集中を避けることができ、何名かの職員がホームページに関することを覚える機会を持つことがで

きる。各職員の持っているものを出し合って、利用者の求めるものを提供していくことができるのではないだろうか。

2. 更新手続き

当館では大阪大学附属図書館の規程である「インターネットによる広報実施要項」の下で、ホームページの掲載内容を更新する基準を設けて、情報の更新を柔軟に行えるようにした。

ホームページの更新には、2つの相反する課題がある。ひとつは、速報性、もうひとつは、広報としての責任である。速報性ばかりを重視して、無責任な情報を提供することになってはならないし、責任を重視するあまり、手続きが煩雑になって速報性を失ってもならない。例えば、当館でも、製本のお知らせをするときに、決裁が必要なのか、といったことが話題になったこともあった。

具体的な形としては、収録項目・担当掛・更新基準をひとつにまとめた表を作成し、運用している。

VII. 問題点・苦労している点等

1. 宣 伝

ホームページ自体の宣伝のことである。

このことは、検討はしていたが、あまり具体化しなかった。学内・学外のいくつかのサイトにリンク依頼をしたり、図書館報に紹介記事を掲載した程度であった。

ところが、リンク依頼をするだけでは、存在自体が知られないことにもなるのではないだろうか。ホームページを見ること自体は、かなりの人が飽きつつある時期だと思われるので、利用者が当館へのリンクを発見する可能性が、以前より低くなっていると考えられる。

実際のところ、アクセス件数（1997.7.～11.）を月ごとに調べてみると、学外からの件数は増加し

ているのだが、「固定客」であるはずの学内からの件数は、横ばいか漸減であった。研究室などからも利用してもらえるように、ビラの配布など、学内向けの宣伝が必要だと感じている。

2. 「ほっとな」情報の提供

このことは「内容・見せ方で注意した点」の項でも触れたが、やはり最も大事なことであろう。もしホームページの存在が知られても、利用者が必要だと感じなければ、アクセスされない。

これは、たいへん難しいことだと感じるが、特に注意を払っていかなければならないところである。

3. その他

維持・管理の分担と言いつつ、実情は特定の少数者に集中しがちである。しかし、当面の方向性を示すことができ、運用していく基盤はできたと思われる。

また、今後の課題として、館内の利用者用パソコンを整えるべきだと考える。ホームページを公開しても、それを見ることができない人がいると、いわゆる情報格差を作ることになる。せめて来館者は見られるようにすべきではないだろうか。当館では設置することはできたが、さらに活用されるようにしていきたい。

VIII. おわりに

当館では、どのような利用者がいるのかを想定して、どのような内容を、どのような形（ページ作り）で提供するのか検討し、ホームページを作成してきた。そして、継続して運用していくには、運用体制の整備、宣伝、そして、必要な情報を随時提供していくことが大事であると感じている。

実際に公開してから新たな問題点が出てくるともあるが、新しい情報提供手段のひとつとして、

今後も充実させていきたい。

本文中では詳しく触れられなかったが、当館のホームページとこの原稿は、以下のプロジェクトチーム、WGメンバーの他、サーバの管理担当者等の協力により成り立っている。

生命科学分館ホームページプロジェクトチーム
第1次（1996年2～3月）

塩見 橘子（資料運用掛長）

久保山 健（図書受入掛）

諏訪 敏幸（雑誌情報掛）

木野 綾子（資料運用掛）

第2次（1996年度）

宮岸 朝子（専門員）

久保山 健（図書受入掛）

藤原 誠（図書目録情報掛）

諏訪 敏幸（雑誌情報掛）

古田 泰子（資料運用掛）

生命科学分館ホームページWG（1997年度）

伊藤 彰（専門員）

和田山祥子（参考調査掛長）

久保山 健（図書受入掛）

鈴木 雅子（図書目録情報掛）

諏訪 敏幸（雑誌情報掛）

古田 泰子（資料運用掛）

本稿は、1997年11月12～13日に久留米大学で開催された、第4回医学図書館研究会にて発表したものに加筆したものである。

参考文献

- 1) 吉村 信, 家永百合子, 鏝 聡. インターネットホームページデザイン. 東京: 翔泳社; 1995.
- 2) ホームページで情報発信, 第1回-最終回. Internet magazine 1996.2 - 1997.1 ; 1996.2 - 1997.1.
HTMLについては、主に上記の2つを参考にした。しかし、最近はホームページ作成ソフトもたくさん出ているので、それを使うのがいいのかもしれない。
- 3) 長谷川豊祐. 図書館員のためのインターネット Pt.3 : ホームページの作成とメンテナンス. 現代の図書館 1997 ; 35(2) : 110-9.
インターネットに関する解説、ホームページ作成のポイントなどがまとめられていて参考になる。
- 4) Shelly TW. Taming the Wild Web page : a Web consultant tells all. Information outlook 1997 ; 1(2) : 10-2.
ウェブサイトに求められるものとして、usefulness, change, appearance, organization の4つをあげている。